

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
福祉心理学基盤演習Ⅲ		必修	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
高田 毅 他	B301	t.takada		水曜日 12:10～13:00	
授業の目的・概要	<p><目的>1年次の基盤演習を基礎として、キャリアをさらに探求する。この演習ではキャリアを探求するために必要となる自己理解をさらに深めることを目的とする。自らのキャリア上の課題を理解できること、改善するための具体的な行動プランを立てること、行動プランを実践してみる実験を行うこと、その成果とさらなる課題を表現できることが目標である。</p> <p><概要>各学生のキャリアにおける課題を改善するための行動目標を設定する。その行動目標に沿った実験、考察を繰り返し行うことで、自己理解を深め、自己の強みを開拓する。その成果をプレゼンテーションで表現することで他者からのコメントを受ける。こうした流れを経て、自己理解を確かにしていく。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	発言を求めながら進めるので、積極的に参与すること。 演習中の質問・疑問・関心・感想はその都度発言し、授業内で消化すること。 体験は人それぞれなので、自分の固有の体験に正直になり、学びにすることが重要である。				
教科書	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	随時紹介する。				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	自己の振り返りをし、自己の課題を設定することができる。			HC(4)	
②	自己の課題を改善するための実験を行い、検証し、次の行動に活かすことができる。			HC(4)、HC(5)	
③	適切なプレゼンテーションを行い、自己表現することができる。			HC(6)	
④	自己の強みについて、自覚し、適切に言語化できる。			HC(6)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーションを行う。1年間の基盤演習の全体像を理解する。	講義・演習	シラバス・配付資料を熟読し、受講の意志を固める。	2	
2	行動目標作成の全体像について学ぶ。	講義・演習	目的と目標を理解し、発表準備を行う。	4	
3	行動目標作成のための課題を設定する。	講義・演習	必要な調査を行い、情報を整理・統合して発表準備を行う。	4	
4	行動目標作成のための課題を確かにする。	講義・演習	必要な調査を行い、情報を整理・統合して発表準備を行う。	4	
5	行動目標発表のための作業を行う。	講義・演習	必要な調査を行い、情報を整理・統合して発表準備を行う。	4	
6	行動目標発表を行う①。	プレゼンテーション	評価を受けて発表を振り返る。	4	
7	行動目標発表を行う②。	プレゼンテーション	評価を受けて発表を振り返る。	4	
8	行動目標に沿った実験の結果と考察の方法を学ぶ①。	講義・演習	必要な調査を行い、情報を整理・統合して発表準備を行う。	4	
9	行動目標に沿った実験の結果と考察の方法を学ぶ②。	講義・演習	必要な調査を行い、情報を整理・統合して発表準備を行う。	4	
10	自分の強みを探す方法について学ぶ①。	講義・演習	必要な調査を行い、情報を整理・統合して発表準備を行う。	4	
11	自分の強みを探す方法について学ぶ②。	講義・演習	必要な調査を行い、情報を整理・統合して発表準備を行う。	4	
12	行動目標発表と自分の強みの発表のための作業を行う。	講義・演習	必要な調査を行い、情報を整理・統合して発表準備を行う。	4	
13	行動目標成果と自分の強みの発表を行う①。	プレゼンテーション	評価を受けて発表を振り返る。	4	
14	行動目標成果と自分の強みの発表を行う②。	プレゼンテーション	評価を受けて発表を振り返る。	4	
15	まとめと行動目標報告書の作成について学ぶ。	講義・演習	発表会を受けて、自己分析の成果を報告書にまとめる。	6	

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照		
---	----------------------------	--	--

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	20	40	0	40	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	2	0	0	5	7
	思考・推論・創造する力	0	2	5	0	5	12
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	2	10	0	5	17
	コミュニケーション力	0	2	10	0	5	17
	取組みの姿勢・意欲	0	2	5	0	5	12
	問題を発見・解決する力	0	10	10	0	5	25

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①	✓	行動目標報告書のレポート課題を作成する。20 点の配点とする。作成ガイドラインに沿って、1 学期間の演習を通した取り組みを報告書の形でまとめる。課題の分析、結果の記述、考察の妥当性、自己の強みの明確さなどを評価する。	コメントを付して返却する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	✓	発表の内容・構成及び聞き手を意識した伝え方等のプレゼンテーション、質疑応答時の対応等を評価する。また、他者評価も行い、配点に含める。第 6、7 回の中間発表会 20 点、第 13、14 回の最終発表会 20 点とする。	演習中に総評を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	✓	演習への取り組み（練習、グループワーク等）を総合的に判断する。	演習中に総評を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	前川真奈美
教員の実務経験	高田 毅：臨床心理士として 18 年、公認心理師として 7 年の臨床経験を有する。 前川真奈美：公認心理師資格を有し、2 年の心理査定業務の経験がある。
実践的授業の内容	臨床心理学的知見を応用し、各学生の自己の分析の方法論として応用する。また、心理学実験の枠組みも活用し、課題の設定からデータの検証、考察までの分析の方法論に応用する。
そ の 他	本演習で単位取得できない場合、原則、3 年次に進級はできない。学科の基幹教育としての演習であるため、特段の事情がない限り、全出席すること。 生成 AI (ChatGPT 等) を使用した課題作成は認めない。発見した場合は、評価を減じる。 教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めない。